

分院腎センターでは現在以下の疾患で治験を行っています。

## 【多発性嚢胞腎】

腎臓に嚢胞がたくさんできる遺伝性の病気です。わが国の患者数は約30,000人と推定されます。腎嚢胞が増え腎臓が腫大し、徐々に腎機能が低下し60歳頃までに約50%の人が腎不全になります。ご家族で透析をされている方がいる場合特に注意が必要です。

現在多発性嚢胞腎に対して、V2 受容体拮抗薬(サムスカ)が保険適応されています。腎嚢胞増大や腎機能低下に対する効果がありますが、一部の患者さんにしか明らかではありません。また多量の飲水継続が必要です。

多発性嚢胞腎に対して以下の治験を行っています。

### ① ベングルスタット：治験名 GZ/SAR402671

グルコシルセラミド合成酵素 (GCS) 阻害剤で、腎嚢胞の成長を促進する物質の蓄積を阻害するような機序が考えられています。

### ② バルドキシロンメチル：治験名 RTA402

多くの腎臓病の発症・進展に深く関与する酸化ストレス・炎症を改善されると言われる Nrf2 (NF-E2-related factor 2) 活性化薬です。

糖尿病性腎臓病や Alport 症候群といった病気に対しても治験が現在進行中で、当院では多発性嚢胞腎に対する治験に参加しております。



© 2017 JMCCCT

## 【頻回再発型/ ステロイド依存性ネフローゼ症候群】

ネフローゼ症候群に対して通常ステロイドや免疫抑制剤が使用されます。

しかし一部の方はステロイドを減量すると再発を繰り返します。そのような症例に対して現在リツキサンが小児領域でのみ保険適応されています。

成人頻回再発型/ ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対して、リツキサンの医師主導治験を行っています。

### ③ リツキサン：治験名 IDEC-C2B8<2>

抗 CD20 モノクローナル抗体で B 細胞を枯渇し抗体産生を抑制します。一旦寛解 (蛋白尿が正常に近い状態) に至った症例にリツキサンを併用するとネフローゼの再発を予防する効果が小児では報告されています。

分院腎センター内科 澤 直樹

①と③は分院のみで実施中ですが、②は本院腎センター内科でも実施中です。また、①の治験では、特殊な眼科診察のため本院眼科の医師・視能訓練士の皆さんにご協力いただいています。

問い合わせ

本院治験事務局 3400、CRC 室 3410

分院治験事務局・CRC 室 5317